

北海道民放クラブだより

第15回江別市

こいのぼりフェスタで紙芝居

平松秀一(S.T.V)

北海道民放くらぶの社会活動部門・紙芝居グループは前の会長、和田氏制作の紙芝居作品70点をベースに、4グループで老人ホームや病院、町内会を対象に活動している。

ことしも江別市教育委員会の要請に応じて、5月12日(金)、元アナ3名の演者(飯田、杉本、古賀)技術1名で参加した。この日はまれにみる好天、会場の江別河川防災ステーションは野外、屋内会場とも超満員だった。



こいのぼりフェスタで紙芝居



親子連れで賑わう会場

野外会場では太鼓の群舞やヒットホップダンスで盛り上がっていた。紙芝居の出番は屋内イベントで、午前と午後の2回公演だった。会場は親子連れなどの観客でにぎわった。

意外だったのは「紙芝居を見ようよ」と子供を誘っていたのは親の方で、会場でも子供より親の方が懐かしいと、身を乗り出して見入っていた。老人ホームとは違う観客の反応の良さに、演者も気をよくしていた。

小樽沖でカレイ釣り

井上忠純(S.T.V)

晴天と穏やかな海に恵まれた5月15日(火)釣りの会恒例のカレイ釣りを小樽沖で実施した。昔の釣りの会は会員も多く、泊沖に一泊二日でしたこともあったが、くらぶ会員の減少や逝去、高齢化で釣りをやめる人も多く、今では会員が5人と衰退、淋しくなっている。

今回はゲストも入れた4人の参加に釣り客1人が加わり、5人の釣りとなった。

正午前に小型の釣り船で出港、10数分で第一ポイントに着く。シーアンカーを入れて一斉に仕掛けを落とす。錘は40号、エサはイソメだ。ここはあまり当たりがない。から揚げサイズから20センチ級が少し釣れる。1時間半ほどで第2ポイントに移る。高橋船長の話で今日の潮廻りがちよつと良くなっているという。

しかし、予想に反して入れ食い気味と忙しくなる。大きいサイズのカレイに交じってから揚げにするとうまいという大型のカジカも混じる。

納竿まじかに私の竿先が重くな



好天に恵まれた小樽沖のカレイ釣り

り、タコではないかと廻りが期待したが、根掛かりで針が一本切れ。また、同じところで3年間使っていたという仕掛けを失った仲間も出た。

午後4時前に納竿した。20枚から40枚の釣果だった。昨年は刺身の大型カワガレイやイシモチが釣れたが、今回は皆無だった。帰宅したら、妻は刺身魚が来ると思っていて、おかずの支度が少なく、わびしい夕食となった

高橋船長は6月からヒラメ釣りを始めるといふ。釣りの会でも秋ごろにはヒラメ釣りを企画するつもりだ。